

INDEX

- 1 目次
- 2 東海理化グループの歴史
- 4 東海理化の価値創造プロセス
- 12 成長に向けての重点取り組み事項
- 14 事業領域と製品紹介
- 16 東海理化の強み
- 18 東海理化プロフィール
- 20 財務ハイライト・非財務ハイライト
- 22 経営成績・財政状態に関する分析
- 24 連結財務諸表
- 28 ESGとSDGsの取り組み

6 新社長メッセージ

お客様を愛し、地域社会を愛し、
社員・家族を愛し、
そして、愛される会社に。

代表取締役社長

二之夕 裕美



Governance

企業統治

- 29 コーポレート・ガバナンス
- 30 コンプライアンス
- 31 情報セキュリティ
- 32 リスク管理

Social

社会活動

- 33 社員との関わり
- 40 お客様との関わり
- 42 株主・投資家との関わり
- 43 仕入先との関わり
- 44 社会との関わり

Environment

環境活動

- 45 第6次環境取組みプラン・CO₂低減長期ビジョン
- 46 2019年度環境活動概要
- 48 低炭素社会の構築
- 52 自然共生社会の構築
- 54 循環型社会の構築
- 56 環境経営

Other

- 60 コーポレートデータ
- 61 東海理化レポートについて

東海理化レポートの該当範囲・内容・項目の確定プロセス

本レポートに掲載されている範囲・内容・項目は、下記のステップで確定しました。

STEP1 掲載課題の把握と抽出

経済・環境・社会情勢やGRI「サステナビリティ・レポート・スタンダード2016」^{※1}、SDGs「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」^{※2}などを参考に、レポートに掲載すべき課題を把握し抽出しました。

STEP2 掲載情報の特定

STEP1で抽出した課題に対し、「経営方針、経営環境および対処すべき課題等(有価証券報告書記載)」や各部門の情報およびステークホルダーからの要望^{※3}に基づき掲載情報を特定しました。

STEP3 掲載情報の優先順位と妥当性の確認

東海理化レポート発行部署を中心に、各部門を含めて特定された掲載情報について、優先順位と妥当性を確認しました。

※1:GRI「サステナビリティ・レポート・スタンダード2016」

GRI(Global Reporting Initiative)は、組織の非財務情報の報告に関する国際基準を策定するNGO。「GRIスタンダード」は、経済、環境、社会に与えるインパクトなどの報告に利用する基準指標。

※2:SDGs(Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標))

ミレニアム開発目標(MDGs)の後継として、2015年に国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成された国際目標。

※3:ステークホルダーからの要望

ステークホルダーとのアプローチはP28「ステークホルダーとのコミュニケーション」を参考。